

# ロシアにおける経済危機と労働事情

青山学院大学教授 袴田 茂樹



与えられたテーマは「ロシアの最近の労働事情」である。ただ、読者の大部分は、社会主義時代から今日のまでのロシアの労働事情に関する基本的な知識から説明しないと、いきなり失業率などを話してもリアルな認識は困難かと思われる。最初に、ソ連時代からの変化を述べて、経済危機の状況にある今日のロシアの話に移りたい。

## ソ連時代の労働者

ソ連時代の労働者は、企業の管理者の指令のままに、ロボットのよう  
に働かされていたというイメージがあるが、実際は逆である。ソ連時代の企業管理者の最大の悩みは、怠惰で規律のない労働者をいかに働かせ  
るか、という問題であった。ソ連時

代、日本の視察団がある企業の現場を訪問した。日本人は、ちょうど休み時間に來たと勘違いをした。皆がのんびりと職場でおしゃべりをしてきたはこのなどを吸ったりしていたからだ。しかし、実際は就業時間中であつた。社会主義体制の下では、皆が公務員のため労働のモチベーションが低い上に、資材供給などがしばしば途絶えて、労働者は就業時間中にブラブラするというのが常態となつていたので。最低賃金が保障されてい  
し、労働力も不足していたので、失業を心配することもなかつた。

1991年にソ連邦が崩壊し、市場経済システムに移行した。ロシアで市場化、民主化を推進した改革派の人たちがもっとも期待したこと  
は、国营企業が私企業に移行して、

競争原理が機能するようになり、企業経営者や労働者に働くモチベーションが生まれ、労働者は生き生きと働くようになり、社会主義時代に低迷していた生産効率も一挙に向上するということであつた。しかし、1990年代は国家の崩壊だけでなく経済も崩壊して、国民は今日のパンを得るのに精一杯で効率どころではなかつた。社会主義のシステムは崩壊したが、新たな市場システムはすぐには機能せず、多くの企業は麻痺して、原始的なバザール経済が出現したのだ。ソ連時代になかつた失業が一般化し、国民は身の回りのものや工場の製品、備品、設備などを勝手にやみ市場で売りさばいて、糊口をしのぐという有様であつた。

## オイルマネーで潤ったロシア経済

ロシア経済が改善されたのは、原油、ガス価格が上昇した2000年以後である。オイルマネーで潤つたお陰で、経済も少し活性化し、国民生活も向上した。しかし、最大の問題点は、オイル(ガス)マネーが生産投資に向かわず、主として投機に向けられたことだ。投資環境が悪く、生産投資よりもマネーゲームの方が手取り早く儲かつたからだ。ただ、これは一部の新興資産家などの話で、大部分の一般国民はソ連時代とさほど変わらない労働環境の下で、国民生活に最低必要な生産、サービスなどに従事した。コルホーズ、ソフホーズといった集団農場や国营企



最大自動車市場であるロシア

業は、一応形の上では民営の会社組織になったが、経営者も変わらず、質的に大きな変化はなかった。したがって、労働者の仕事ぶりも、いっぺんに変わったわけではない。個人農場や中小企業はロシアでは中国におけるほどは発展しなかった。

## 私的商業の活発化

もちろん、ソ連時代から大きく変わった面もある。

ソ連時代には存在しなかった私的な商業が活発化したのが、最大の変化であった。大型のスーパーや新しいレストラン、ホテルなどがたくさん生まれ、そこでのサービスや労働者の働きぶりは、西側の資本主義国とさほど変わらない状況になってきた。ソ連時代と異なり、金さえ出せば何でも買えるし、どのようなサービスでも受けられるようになった。

ロシアは、トヨタの車が世界でもっとも沢山売れる国のひとつになったということや、モスクワに寿司レストランが数百も生まれたということが、ロシアの変化を象徴している。ただ、ロシアでは貧富の差が大きく、国民の大部分が、月収3〜5万円という状況のため、また物価も高いため、資本主義化の恩恵に与っているのは、まだまだ少数派だ。

2000年から2008年夏まで、オイルマネーで潤った時期には、ソ連邦から独立した周辺諸国からロシアに出稼ぎ労働者が1千万人以上押し寄せた。ウズベキスタンやキルギスなど中央アジア諸国では、ロシアの数分の1以下の賃金だからだ。非合法の出稼ぎも数百万にのぼり、ロシア人労働者を守るために、出稼ぎ労働者は建設現場やいわゆる3K労働に集中し、小売業から閉め出す動きも生まれた。

2008年秋以後、ロシアも世界の金融危機、経済危機に巻き込まれた。特に、最大の輸出品である原油や天然ガスの価格が暴落した。同時にロシアの工業生産も大幅に低下し、失業者が増加した。2008年12月にロシア企業は前年同期と比べ生産が10・3%落ちた。特にセメントは26・1%、自動車タイヤは31・7%、

鉄鋼、圧延鋼は45・6%、トラクター、トラック、バス、化学繊維などは40%〜89%も生産が落ちている。失業者数は国際的な算定基準で算出すると、2008年9月の400万人から、2009年には700〜900万人、あるいは1000万以上に達するという予測も出ており、失業率は10%を超える勢いだ。インフレ予想は7%以下のはずであったが実際には13%を超え、2009年も13・14%と予想されている。

## ジレンマに陥るロシア経済

今、ロシア経済はジレンマに陥っている。ロシア経済の最大の課題は、資源輸出依存経済およびソ連時代の非効率システムを克服して、つまりオイルマネーに胡座をかく従来の非効率な経済構造を抜本的に改革して、真の市場経済に改組することである。しかし、構造改革や合理化は当然痛みを伴う。昨年8月以前の経済にゆとりのある状況ならば、合理化を実施し失業者が生じても、他の分野でそれを吸収することが可能であった。

しかし、深刻な経済危機で失業者が大量に生じている現在においては、従来の非効率な体制を維持しても、とりあえずは失業者を増やさな



メーデーのデモ

いことが最重要課題となる。失業対策として、周辺諸国からの出稼ぎ労働者を帰国させる政策が実施されて、トラブルを生んでいるほどだ。今ロシアでは、昨年までの経済好調期になぜ経済の構造改革を実行しなかったのか、という批判が政府に向けられている。ロシア経済は、構造改革も必要だが、それに反する失業対策も必要というジレンマに陥っているのである。

袴田茂樹（はかまだ・しげき）

1944年広島県福山市生まれ。現職は青山学院大学国際政治経済学部教授。日本の政治学者でロシア問題の権威。専門はロシア社会論。東京大学文学部哲学科卒。モスクワ国立大学大学院哲学科修了。芦屋大学教授を経て、1988年から現職。著者多数。1987年「深層の社会主義」でサントリー学芸賞受賞。